



神屋敷

石背山に關しては、河原左大臣、源融が詠んだ歌

かくとだに

思ふ心の石背山

下行く水に

草かくれつ、

が後拾遺集に載っている。

建弥依来命は、のちに梅田（岩瀬村梅田）の地に移つて、子孫、梅田莊司が永く栄えたといわれる。

（話者 江連 栄）

## 重兵衛屋敷と毒清水

《滝》

戦国時代の江州の武将、浅井長政の家来で小針重兵衛なる者がいた。城主浅井家が滅びると、重兵衛は東北の地にのがれて農民となった。現在の藤沼池（田向池）の近くに、重兵衛の屋敷があったと伝えられる。

重兵衛は、田向の周囲を開墾し、田圃を耕作していたという。近くのを重兵衛山といった。山には重兵衛が植えたといわれる「からかさ松」が最近まであったが、いつの間にか切り倒されていまは残って